

令和6年度 学校関係者評価書（川南町立川南小学校）

項目	評価指標 及び 具体的目標	自己評価		自己評価結果の考察・分析および改善策等	関係者評価		学校関係者評価委員の意見
		項目	総合		項目	総合	
Ⅰ 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進							
1	家庭教育支援の充実に努める。 ②「家庭学習の手引き」を活用した家庭との共通理解・共通実践	3		○家庭学習についての保護者評価の肯定的回答は、75%であった。 ●タブレットを持ち帰らせて学習に取り組ませることも行ったが、個人差・家庭差が見られる。	3		・家庭学習については学校側だけでなく各家庭での取り組み方や考え方で差が出てくる。家庭からの協力が必要。 ・タブレットによる家庭学習については、少しずつ伸ばしていけたらよい。
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。(PTA活動)	4	4	○第1回の学校運営協議会の熟議には、地区公民館長や主任児童委員、PTA三役、教職員にも参加してもらい「体験活動を通して、感謝の気持ちをもつ」というスローガンを決定することができた。また、第2回の学校運営協議会では、より具体的な活動のアイデアを出し合い、2学期以降の授業実践につなげることができた。	4	4	・様々な方に熟議へ参加してもらったことで、以前よりも多様な意見が出てきた。そのため、非常に有意義な場となっていた。学校活動に直接結びついた点もよかった。 ・学校と町民が一体となって児童のために活動している所がよいと思う。
1	読書活動を推進する。		4	○学級担任が定期的に図書の貸出の時間を設けるとともに、図書委員会(児童)の「読書玉入れ」という取組もあったため児童の読書量は多かった。 ○町図書館のリクエスト配本を利用し、様々なジャンルの本にふれる機会を設けることができた。 ○子ども新聞への積極的な投稿を行うことができた。	4		・いろいろと取り組んでいることは評価できる。 ・ネットからの情報よりも本や新聞からの情報にふれる習慣は大切なので、この活動は継続してほしい。 ・子ども達が本とふれあえる機会をきちんと作ってもらえていると思う。
2	確かな学力を育む教育を推進する。		3	○職員研修(主題研修)として時間を設定し、児童の学習意欲が高まるような課題の設定の在り方や、自分の考えを分かりやすく伝える話し合い活動の在り方について研究することで、職員の授業実践力が高まった。 ●授業時間内で習熟の時間を確保し、児童の学力向上につなげていく。また、児童の個別最適な学びを充実させていく必要がある。	4		・児童の学力向上には個人差があるが努力を続けてほしい。 ・授業参観の様子では、どの子も楽しそうに意欲的に学習している。その環境づくりを教職員の方々が研究(実践)されていく評価できる。 ・個別対応にも限りがあると思うが、児童のために充実させていきたい。
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ※ いのちを大切にする教育に関する項目を入れる。		3	○「いのちの教育週間」や「人権週間」にあわせて目標を意識した道徳授業等を実践することができた。 ○児童の悩みや問題を早期につかみ、個別の相談を行っていくことで解決に努めることができた。気に係る児童にはスクールカウンセラーによるカウンセリングを行うことで、精神的な安定を図ることができた。	4		・子ども達が精神的に安定し落ち着いているのは大変よいことだ。 ・いのちや人権は何より大切だと思う。学校全体で児童を見守ってくださっていることに保護者も安心して思う。 ・カウンセリング機能が高いということは、今の時世には特に必要だと思うので、本校における強みであり魅力でもあると思う。
4	特別支援教育を推進する。		4	○特別な配慮を必要とする児童に対して学級担任だけでなく、他の職員も連携して指導に当たることができた。 ○全職員が自己肯定感を高める指導(発達支持的生徒指導)を心がけることで、児童を健全に育成することができた。	4	4	・きめ細かい支援ができていようだ。 ・配慮を必要とする児童を全職員でサポートしている体制は素晴らしいと思う。 ・「自己肯定感を高める」指導が実践され、結果としても顕れていることは素晴らしいと思う。
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。		4	○ふれあい参観日(11月)は、保護者の参観率もよく、親子で交流できていた。 ●6年については趣旨にあっていないので、次年度は外部講師の話を事前に聞いておき、そこから得たものを児童が保護者へアウトプットするなどの工夫をしていきたい。	4		・郷土料理や昔の遊びなど地域とのふれあいが増えてよかった。 ・保護者の郷土愛が子どもにも伝わるのではないかとと思う。学校や地域社会に親子で参画することで、更に深まったのではないかと考える。 ・ふれあい参観日の様子はどの学年においても楽しく有意義な時間を過ごせていると目に見えて実感できた。
6	キャリア教育を推進する。		4	○地域人材を活用した授業が多く展開されている。そのため、児童評価の「川南が好き」の肯定的回答95%、「川南に役立ちたい」81%につながっていると考ええる。	4		・「川南が好き」の95%は、授業等の学校の取組の成果だと思う。 ・「川南が好き」「役に立ちたい」という児童が一人でも増え続け、逆に将来この回答が成長につれて悪化しないよう、地域・行政との連携も重要である。
7	社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進する。 ※ ICTの活用推進項目を入れる。		4	○中学年以上は、学習に日常的にタブレットを使用している。教師は電子黒板(デジタル教科書)を効果的に活用した授業を展開している。また、ICT研修も行い、教師の資質向上に努めることができた。	4		・タブレットについては、今後確実に必要になる能力だと思うので、力を入れてほしい。 ・ICT教育は進化する一方なので、先生方の資質向上も大変だと思う。 ・むしろ大人以上の有効利用ができていていると思うほど、子ども達の利用習熟度に驚いている。今後もぜひ伸ばしていってほしい。
Ⅲ 教育を支える体制や環境の整備・充実							
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。		4	○教職員評価制度の目標設定ミーティングの際に、教員の育成指標を示して個々の今年度の目標を確認し、日々の業務を遂行させた。 ○分かりやすい授業についての肯定的回答の割合が高い。(保護者評価87%、児童評価95%)	4	4	・保護者・児童の評価が高くよい結果である。 ・先生方の授業への取組・努力が高評価につながったと思う。先生方の働き方(勤務時間等)の負担がもう少し軽くなればと思っている。 ・教職員一人一人のメンタルケアが不可欠なので、働く上でのモチベーションを保つためにも、業務に捉われ過ぎないよう相互観察をしてほしい。
2	安全、安心な教育環境の整備・充実に努める。		3	○保護者の協力のもと、非常災害時の引き渡し訓練を実施することができた。 ●風水害時は、運動場がぬかるむため、引き渡し訓練の仕方を見直す必要がある。	3		・災害時は、その時点での臨機応変な対応が必要となる。 ・災害はいつ起こるか分からないので、訓練を継続していただきたい。 ・行政と連携して、定期的な点検や情報共有の場を増やしていくべきだと思う。
Ⅳ 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進							
	学校体育の推進に努める。						・昼休みに大きな声を出して元気に走り回っている

1		4	4	○昼休みに外で遊ぶ児童は約8割である。 ○弁当の日は、ワークシートをデジタルデータとして児童より提出させた。高学年には栄養教諭より事前指導を行ったことで、児童自ら弁当を作る割合が増えた。	4	4	二学期からその取り組みが定着した。四学期の のがよい。 ・外で遊ぶことが楽しいと思っているようで安心した。体を動かすことはとても大切なので大いに遊んでほしい。 ・弁当の日は様々な局面で子ども達を心身共に伸ばすよい機会と思うので、是非継続していただきたい。
---	--	---	---	--------------------------------------------------------------------------------------------------	---	---	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------